

ボーイスカウト東京第四団

機関紙

第 83 期

Nov. 1, 1967



君に向かつてなされた親切に対しては、常に感謝すべきで、君が感謝しているということを、充分に相手に向かつてあらわすよう、心がけるべきである。君に対して与えられた贈物は、君が、呉れた人に感謝するまでは、まだ君のものではない、ということとを記憶されたい。君がこの地上に生を営んでいる間に、あとに残すべき、なにか善いことを、務め行なうことだ。

ある作家は、次のようなことを云っている。

「私は度々、このように思う。太陽が沈むと、この世界は、大きな毛布でもって、天国の光をかくされてしまう。だが、星たちは、この世に善いことをした人たちによつて、その毛布にあげられた孔である。星は、みな同じ大きさではない。大きいものあれば、小さいものもある。それは、ある人は大きな善を行ない、ある人は小さい善をしたからである。だが、いずれにしても、彼等は、天国に行く前に善いことをし、毛布に孔をあけたのだ。」と。

君たちは、この世にいるあいだに、善いことをして、毛布に孔をあけなさい。善人になることはよい。然し善を行なうことは、それよりもはるかによい。

## ジャンボリー報告記(2)

ジャンボリーを支えたもの

副団委員長 杉原正

今回の世界ジャンボリーに参加することが決まり、心配のオ一がが語学のことであった。各隊に日本語の出来るスカウト(イーグル、富士スカウト)が付くから心配ないと聞いて安心していた。ところがである。期待は裏切られ、我々の隊に来たホスト・コープ(奉仕隊をこう呼んでいた)は、胸にフランス語・スペイン語と書いてあり、日本語とは書いてなかった。しかし、友情のために、は言葉を完全に超越していた。このホスト・コープ、全く完全であった。朝、我々が起きるとやって来て、隊・班のスケジュールに合わせて行動するのである。班がハイキングにゆくと付いて来る、水泳に行くとまた付いてガイドしてくれる。食事の時だけ我々から離れ、影のように我々と一緒である。隊には二名付くことになっていたが、三人がつねに我々と一緒であった。々座りなさい々といわなければ座らず、々休みなさい々と云わなければ休まず、隊が出かけている間に、我

々がスカウトに改善してほしいと願っていることをサツサとやってしまふ。火起しの手伝い、食事の作り方の指導、工作の指導、何でもやっつてのける。スコップがないといつてはサブキャンプ本部に走り、材料がないと云うと交渉し、獲得して来る。々全く素晴らしめという一言につきる。夜のグリッパー会議が終わるまで、我々のサイトにおり、夜遅く自分のサイトに帰ってゆく。奉仕隊としての食事当番もあり、我々と同じような生活をしているのであるが、感激した我々がホスト・コープの隊長にお礼をのべると、クイーグルだから当りまえである。ただその一言である。指導者に対する尊敬の態度が通所にみられたが、その信頼を得た指導者達も立派である。スカウト王国。スカウト人口も確かに多い。多くの中から選ばれた五〇〇人のホスト・コープがこのジャンボリーを支えたといつて過言ではないだろう。各地から選ばれて来てチームを作った隊としてこれだけのチームワークができること、やはりスカウトの質の問題であるをつくづく感心させられた。ある風の強くなった深夜、我々が見廻ろうとしてみると、懐中電燈が動いている。彼らが見廻

りに来ていたのである。ただ頭が下る思いであった。お別れの日、彼らは自分で作った記念品をもって一人一人のスカウトに握手をして渡してくれた。お互いの顔に止めども止まらないものがあった。

### 甲武信岳の話

少年隊隊長 柳健一

東京に二千米以上の高い山がある事を知っていますか?雲取山といつて二〇一八mもあります。その北西の方向に甲武信岳と云う二四八mもある山があります。この名のいわれは、甲州(山梨)武州(埼玉)信州(長野)の三県にまたがっている山と云う意味で、その頂上からの展望は三六〇度八ヶ岳から富士山までグルリ日本中が見えるような素晴らしく眺がよいところです。たぬしに頂上からオシッコを三方向にしてみると、一方は荒川に流れて東京湾に、又一方は笛吹川から富士川になって駿河湾に、そしてもう一方は桂川、千曲川、信濃川と名を変えながら遠く新潟の海まで注ぎ込むという大変な山の頂上なのです。

そういうわけでこの甲武信岳のまわりの森は東京や長野の「水源保護森林地区」に

指定されていて（わかりやすくいえば「鶴  
刈に森の木を切つてはいけぬ」地区）、  
そのうっそうとした昼なお暗い森の中は、  
空気がひんやりとしていて、足元の地面に  
はトルコ製のジュータンを五・六枚重ねて  
敷きつめたような厚いコケが一面に生えて  
います。そのコケをぐいぐいとつかんで地面  
からはがしてみるとその下は、かこう岩の  
細かい砂地で、白い砂の上をつめたい水が  
音もなくうすい絹を流したように流れてい  
ます。スカウト諸君が行ったら、ソクソク  
するような神秘にみちた森が東京のすぐ近  
くにあるなんて素晴らしいですね。

今はハイカーしかおとずれないこの山も  
江戸時代から明治の頃、まだ中央線のなか  
った頃には、秩父市から諏訪方面へ行く街  
道として、旅人でかなりにぎわったらしく、  
甲武信岳の下の十文字峠には、道しるべの  
おじぞう様が今でも一里ごとに立っていま  
す。又このあたりは昔から深い森だったら  
しく、平家の落人がひっそりと住み込んだ  
栃木部落があったり、「サンカ」といって  
森から森へジブシーのように渡り歩く、今  
でもナゾにつつまれた人たちのいたところ  
だそうです。このサンカという人達は、山  
の中を一日四十回立平気で歩いて、山に近  
い部落におりて来て、たきぎや、狩でつか

まえたイノシシなどを売ってその代りに食  
べ物を買ってまた山へ帰って行くという生  
活をしていた人達で、その住家が普通の平  
地の人達にはどこにあるのかぜんぜんわか  
らないのだそうです。現在はいらないと思  
いますが栃木部落とか二瀬ダムのあたり  
の旅館に泊まると土地のおじいさんがよく  
そんな話をしてくれるそうです。

こういう話が不思議でない程、このあた  
りの森は深く静かなのです。

冬北風の強いよく晴れた日に東京タワー  
に昇ると西の方にこの奥秩父の山々が見え  
ることがあります。今頃は松や杉の緑、モ  
ミジの赤、白樺の金色の葉がおりかさなっ  
てとても美しいと思います。十一月も中旬  
になると雪がふりはじめます。だから簡単  
に行くわけにいきませんが、大きくなった  
ら一度行ってみるとよいでしょう。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

ボーイスカウトの上級班長になって

シニア 高玉 大

この題は僕にとってふさわしくない。な  
ぜならば、前に一度経験があるからです。  
少年隊時代は上級班長というものは、リー  
ダーでもなくスカウトでもないという空間  
的な立場であると教えられ、そのように見

えてきたのでその立場に立ちがたいものだ  
と思ってきましたが、今は非常にやりがい  
のある大切な役だと思いました。上級班長  
の立場が空間的なものであるということだ  
けでは理解しにくいと思いますので具体的  
に例をあげて説明します。春の千葉でのキ  
ャンプの前の出来事です。キャンプに出  
発する一日前、台風がくるということでス  
カウト達が台風なのでキャンプを中止しよ  
うと言われ、リーダーからは、訓練なのに  
台風がくるといってやめろということでは  
何のためにキャンプをするのかわからない  
からキャンプは決行するといわれ、上級班  
長としてはどうしようもなくなってしまっ  
たことがある。結局キャンプは決行され、  
結果は成功だった。この時の上級班長が僕  
だった。しかし僕は皆をうまくまとめる事  
が出来なかつたので上級班長とハう役は僕  
にふさわしくないと考えたのです。けれど  
もシニアスカウトになって、ボーイスカウ  
トの上級班長の役をすることになり、リー  
ダーとスカウトの間に立って、リーダーの  
言う事を忠実に守り、スカウトの要望も出  
来るだけ聞き入れ、うまくまとめるという  
むずかしい役にむかえないと思うばかりでな  
く今はやりがいのある仕事だと思いはじめ  
その仕事に全力を尽してあります。

## ローバー新隊員紹介

去る十月十四日に青年隊五周年記念式典を靈南坂教会で行なった際に、三名青年隊に入隊しましたのでここに紹介します。

### ◎安藤徹(芝浦工業大学に在学中)

体は細いがエネルギーが豊富な男。体のどこにエネルギーを貯えているのかわからないが、なにしろエネルギーをたくさん持っています。これからの活躍ぶりを期待して下さる。

### ◎鈴木健(日本獣医大に在学中)

ちよっと見ると一番こわそうだが心の中は非常にやさしい男。動物愛護心はどの人にも負けないものを持っています。今後青年隊に明るさを増してくれるでしょう。楽しみにして下さい。

### ◎寺田善次郎(独協大学に在学中)

身長一八三〇の大男。体が大きいせいか、考える事、行なう事、笑う事、その他何でもスケールの大きいことをやります。高い所にある物を取る時などはこの人にまかせましょう。これからの活躍を見て下さい。この三名は、スカウト歴が全然ない者ばかりですから、いろいろとわからない事がありますので今後共よろしく願います。

## 指導者講習会

年少隊 デンマザー一同

十月二十五日～三十日まで城東小学校にて才一四回年少指導者講習会が開かれました。プログラムは次の通りです。

- 一日目 開講式、BS、CS教育の概要
  - 二日目 指導者精神、青少年の現況
  - 三日目 組と隊の活動に関して
  - 四日目 工作、家庭との協力、健康
  - 五日目 ビクニック(現地で実習)
  - 六日目 団の設立、月例会、閉講式
- 六日間毎夜六～九時までDM四人が参加し、カブになったつもりで楽しむと共に、大いに勉強しました。今まで無我夢中でやって来ましたが、この講習会に参加して自分達をふり返り、これからも大いなるファイトをもってスカウトの為にガンバル力を与えられました。多くの貴重な時を持ち、この講習会で得たものを徐々に消化して行きたいと思えます。

### 年少隊十月活動報告

- 七日 共同募金(有楽町駅附近)
- 全員参加で結果は去年を多少上まわる。
- 十四日 組集会。国旗について(各国々旗作成。掲揚の仕方など)
- 十五日 ビクニック(世田谷砦公園)

元ゴルフ場の緑地で思い切りゲームを楽しんだ。(スカウト十二名。リーダー五名、DC三名参加)

十月は、主に、体をきたえる意味で、ゲーム、戸外を活用。また停滞きみだった歌の練習に力をいれました。

### 報告

|| 団委員会議 || 十月七日 於客室

出席者 十四名

- 一、四十一年度決算報告
- 一、父兄総会 十一月十八日(土)

決算報告、その他

- 一、バザーに関して

- 一、各隊報告

### 編集後記

今月は原稿の集りも悪いし、わめいたところで仕方がない、また冬眠でも初めるかと思わしい気分になってひっこむと思ったり大違い。微笑の影に厳しさあり、食いだりが効を奏して思わぬ量の原稿を戴き、空問埋立て役のだからりんとしまりのないあとがきが今月は身を細めています。ありがとうございます。来月はクリスマス特集です。

スマイル 才八十三号

発行所 日本ボーイスカウト東京才四団